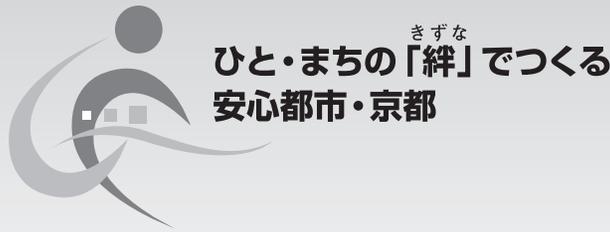


# 京都消防の現況

◎ 統一スローガン



## 平成26年度京都市消防局運営方針 骨子

「安心都市・京都」「国際観光都市・京都」の実現に貢献

- ☆ 市民・観光客等への情報発信力の強化
- ☆ 京都市政策評価に掲げる数値目標の達成

- 目標1 火災による死者(放火自殺等を除く)の半減(7人以下)
- 目標2 応急手当実施率の向上(平成32年までに70%以上)

最重点事業

### 重点方針 1 火災予防

- ・住宅防火及び焼死者防止の取組の推進
- ・防火基準適合表示制度に伴うホテル、旅館等の防火安全対策の推進
- ・屋外での催しで開催される露店等に対する指導の強化

最重点事業

### 重点方針 2 消防活動

- ・消防指令システム更新整備と消防救急無線デジタル化整備
- ・平成25年台風18号を踏まえた大規模災害対策の強化
- ・あらゆる災害への対応を想定した消防救助活動能力の向上

最重点事業

### 重点方針 3 救急

- ・若年層をはじめとした幅広い世代への応急手当の普及啓発
- ・救急現場における活動能力の向上及び救急需要対策の実施

最重点事業

### 重点方針 4 地域防災

- ・消防団の活性化及び水災対応力の向上
- ・いざという時に自ら考え行動できる自主防災組織づくりの推進
- ・事業所における帰宅困難者対策の推進

重点方針 5 未来の京都消防を担う人づくり・組織づくり

# 京 都 市 の 概 況

京都市は、日本のほぼ中央部の内陸に位置し、京都府の南部に当たる山城盆地の北部を占め、東、北、西の三方を山に囲まれた盆地に市街地を形成しており、市内を鴨川と桂川が貫流しています。



市域は、北山の奥深くまで伸びていますが、山林原野が広く、市街地の占める割合は市域面積の約18%となっています。気候的には、夏は蒸し暑く、冬は底冷えするといった季節による寒暑の差や、昼夜の気温差が大きく、盆地特有の気候となっています。

本市が誕生したのは、我が国において市政が施行された明治22年になります。当時の市域は上京区、下京区の2区のみで面積は29.77km<sup>2</sup>、人口は約35万人でした。その後、周辺地域の編入を重ね、昭和30年には人口が120万人を超え、昭和31年9月に政令指定都市へと移行しました。昭和51年には、東山区と右京区の分区により山科区と西京区が設置され、現在の11区制となりました。平成17年4月に北桑田郡京北町を編入し、現在の市域(面積827.90km<sup>2</sup>、人口147万人)となっています。

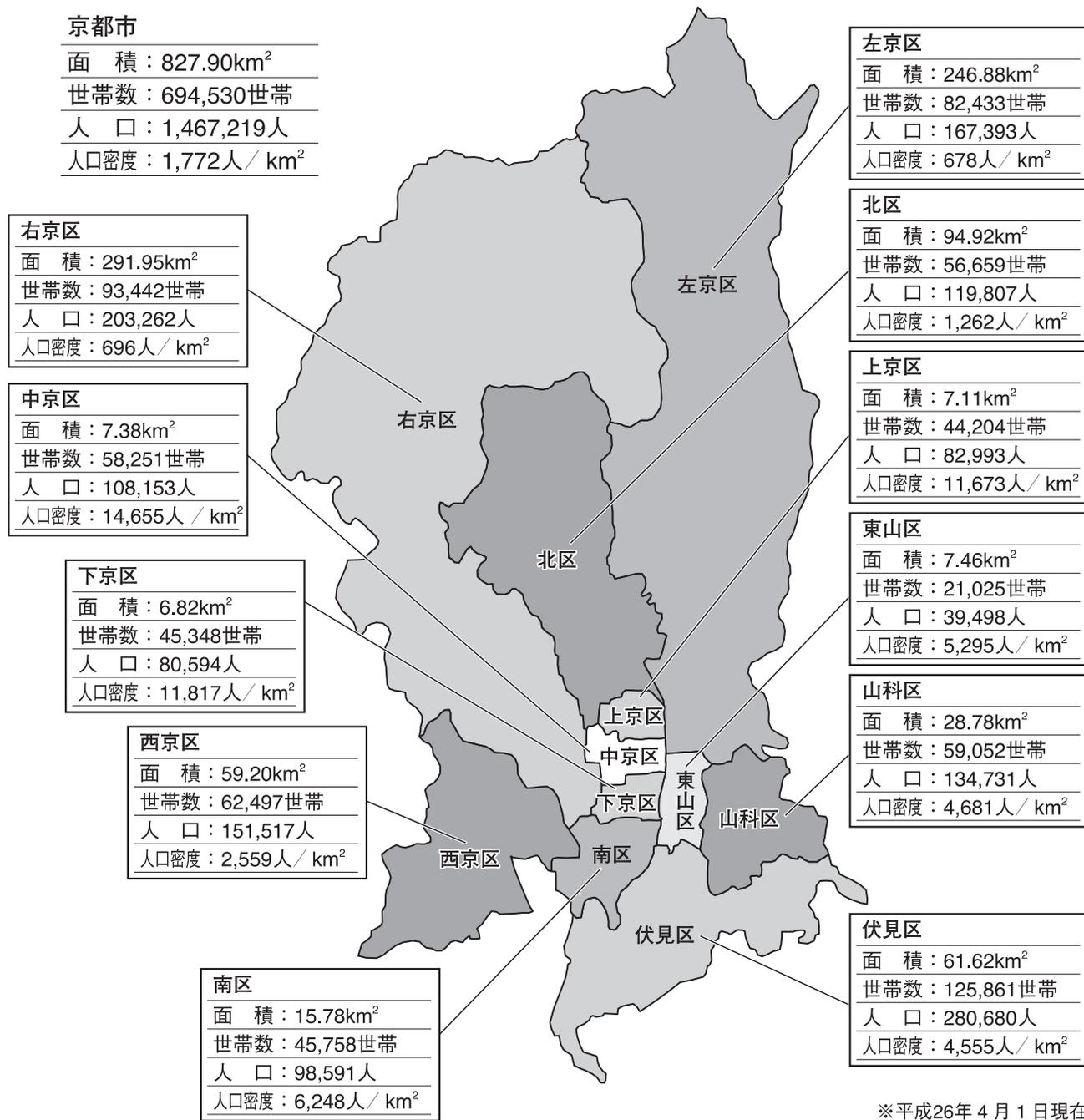
西暦794年に平安京が建都されて以来、歴史的な発展を背景に、本市は西陣織や京友禅、京焼・清水焼などに代表される数多くの伝統産業のほか、多くの分野において独創的な産業が発達し、国内有数の「ものづくり都市」として発展してきました。近年は先端技術の導入やベンチャー企業による新しい産業分野への開拓が積極的に進められています。

一方、1200年を超える悠久の歴史に育まれた世界に誇る歴史と文化を有する「文化首都」として、高い学術研究機能を有する都市であるとともに、世界遺産をはじめ数多くの文化財が、山紫水明と称えられる美しい自然と調和しながら受け継がれています。また、葵祭、祇園祭、五山送り火、時代祭など一年を通じて様々な伝統行事が催され、国内外から年間約5,000万人の観光客が訪れる国際的な文化観光都市でもあります。

本市では、昭和53年に「世界文化自由都市宣言」を行い、都市理念(都市の理想像)を明確にしました。平成11年12月には、21世紀の最初の四半世紀におけるまちづくりの基本方針として「京都市基本構想」を策定しました。また、この基本構想を具体化するため、第1期(平成13年～平成22年)の基本計画に引き続き第2期の基本計画として、平成22年12月に、平成23年度から10年間の京都の未来像と主要施策を示した「はばたけ未来へ!京プラン(京都市基本計画)」を策定し、「安らぎのある暮らし」と「華やきのあるまち」の実現に向け、市民の暮らしを守り、京都の発展に必要な政策を着実に推進しています。

平成24年3月には、平成24年度から平成27年度までの4年間を計画期間とする「はばたけ未来へ!京プラン」実施計画を策定しました。本計画では、基本計画策定後に発生した未曾有の大災害「東日本大震災」の教訓を踏まえた必要な事業を盛り込むとともに、優先的に取り組むべき11の重点戦略と政策推進の基盤となる「行政経営の大綱」の取組について実践することとしています。

# 京都市域図



※平成26年4月1日現在

## 京都市市民憲章

わたくしたち京都市民は、国際文化観光都市の市民である誇りをもって、わたくしたちの京都を美しく豊かにするために、市民の守るべき規範として、ここにこの憲章を定めます。

この憲章は、わたくしたち市民が、他人に迷惑をかけないという自覚に立って、お互いに反省し、自分の行動を規律しようとするものです。

1. わたくしたち京都市民は、美しいまちをきずきましよう。
1. わたくしたち京都市民は、清潔な環境をつくりましよう。
1. わたくしたち京都市民は、良い風習をそだてましよう。
1. わたくしたち京都市民は、文化財の愛護につとめましよう。
1. わたくしたち京都市民は、旅行者をあたたくむかえましよう。

### 〈平成26年の推進テーマ〉

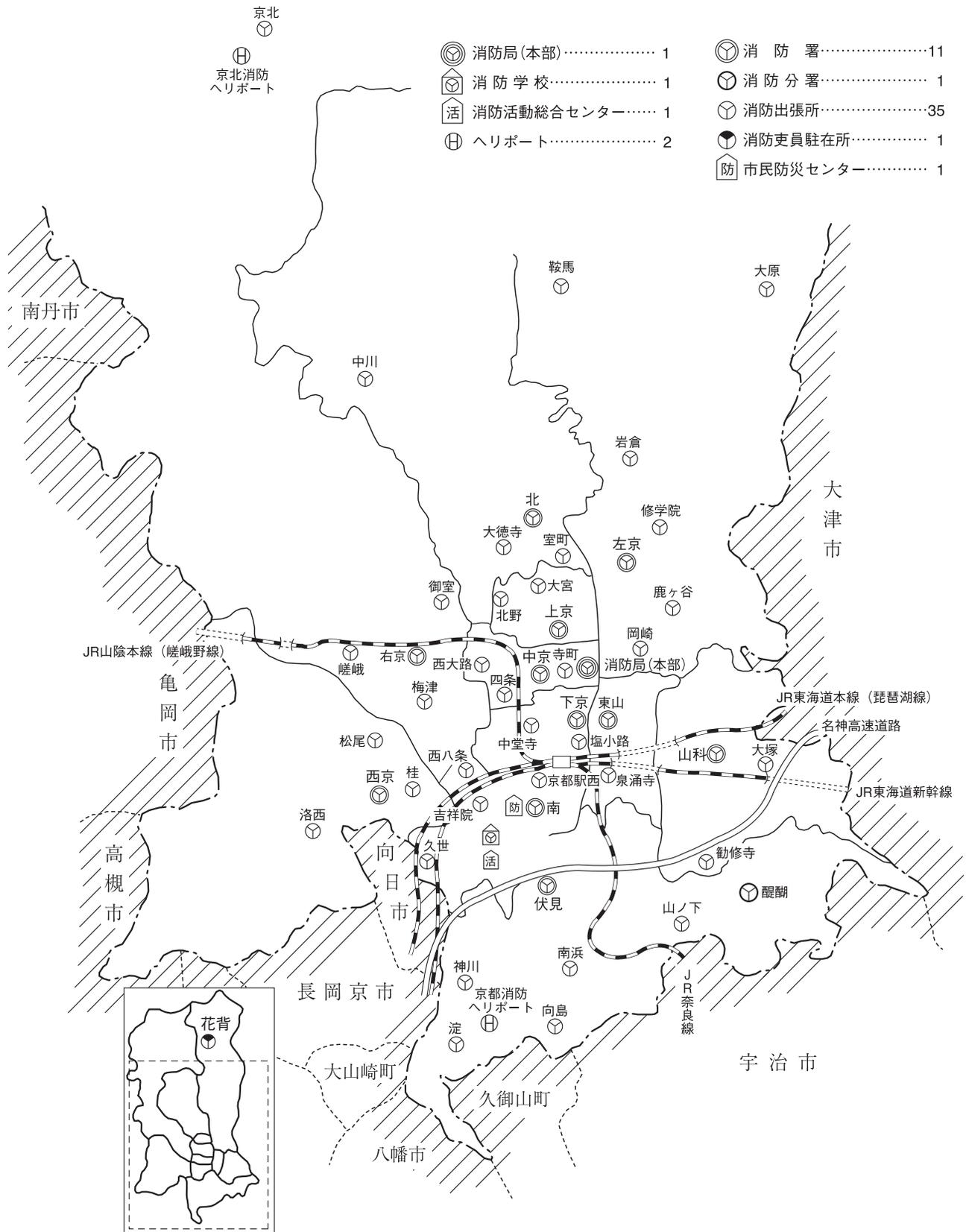
日本文化や美しい景観など京都らしきを守り育てよう  
～世代を超え、京都に伝わる魅力を次世代に

引き継ぐまちづくり～

### 〈実践目標〉

- (1) 自然やまちの美観を守り、緑豊かな美しいまちにしましよう
- (2) 「DO YOU KYOTO? (環境にいいことしていますか?)」を合言葉に環境にやさしく豊かな暮らしを実践しましよう
- (3) 地域のつながりを大切に、みんなで支え合いながら、安心・安全に暮らせるまちをきずきましよう
- (4) 伝統、文化をはじめ、世界に誇る京都の財産を大切に守り伝えましよう
- (5) 国内外から訪れる人をおもてなしのこころで迎え、感動していただけるまちをきずきましよう

# 消防機関の配置



名 称	所 在 地	電 話 番 号
消 防 局 (本 部) 消 防 学 校 消防活動総合センター(管理棟) 京 都 消 防 へ り ぽ ー と 京 北 消 防 へ り ぽ ー と 市 民 防 災 セ ン タ ー	〒604-0931 中京区押小路通河原町西入榎木町450-2	075-231-5311代
	〒601-8166 南区上鳥羽塔ノ森下開ノ内21-3	075-682-0119
	〒601-8166 南区上鳥羽塔ノ森下開ノ内94-4	075-671-2119
	〒612-8244 伏見区横大路千両松町	075-621-1834
	〒601-0252 右京区京北五本松町西山	
	〒601-8445 南区西九条菅田町7	075-662-1849
北 消 防 署 大 徳 寺 消 防 出 張 所 室 町 消 防 出 張 所 中 川 消 防 出 張 所	〒603-8425 北区紫竹下緑町87	075-491-4148代
	〒603-8231 北区紫野大徳寺町88	075-491-8748
	〒603-8149 北区小山南上総町1-1	075-451-7990
	〒601-0122 北区中川北山町48-2	075-406-2311
上 京 消 防 署 大 宮 消 防 出 張 所 北 野 消 防 出 張 所	〒602-8031 上京区釜座通下立売下る東裏辻町398	075-431-1371代
	〒602-8441 上京区大宮通今出川上る観世町110	075-441-1510
	〒602-8384 上京区今小路通御前西入紙屋川町870	075-465-0119
左 京 消 防 署 岡 崎 消 防 出 張 所 鹿 ヶ 谷 消 防 出 張 所 岩 倉 消 防 出 張 所 修 学 院 消 防 出 張 所 大 原 消 防 出 張 所 鞍 馬 消 防 出 張 所 花 背 消 防 吏 員 駐 在 所	〒606-8211 左京区田中西大久保町36	075-723-0119代
	〒606-8344 左京区岡崎円勝寺町23-1	075-771-3195
	〒606-8447 左京区鹿ヶ谷ノ上宮ノ前町37	075-771-0105
	〒606-0015 左京区岩倉幡枝町1204	075-701-3000
	〒606-8081 左京区修学院大林町13-8	075-781-0119
	〒601-1244 左京区大原上野町564-3	075-744-2249
	〒601-1112 左京区鞍馬貴船町5-2	075-741-2990
	〒601-1103 左京区花脊八軒町1-1	075-746-0062
中 京 消 防 署 寺 町 消 防 出 張 所 四 条 消 防 出 張 所 西 大 路 消 防 出 張 所	〒604-8265 中京区西堀川通御池下る西三坊堀川町521	075-841-6333代
	〒604-0931 中京区押小路通寺町東入榎木町101	075-222-1546
	〒604-8854 中京区壬生仙念町30	075-841-2838
	〒604-8437 中京区西ノ京東中合町45	075-841-0243
東 山 消 防 署 泉 涌 寺 消 防 出 張 所	〒605-0862 東山区清水五丁目130-8	075-541-0191代
	〒605-0974 東山区泉涌寺五葉ノ辻町13-2	075-561-1330
山 科 消 防 署 勸 修 寺 消 防 出 張 所 大 塚 消 防 出 張 所	〒607-8341 山科区西野今屋敷町2-10	075-592-9755代
	〒607-8226 山科区勸修寺仁王堂町27-6	075-573-0119
	〒607-8134 山科区大塚北溝町23-1	075-595-0240
下 京 消 防 署 塩 小 路 消 防 出 張 所 中 堂 寺 消 防 出 張 所	〒600-8191 下京区五条通高倉西入堺町27	075-361-4411代
	〒600-8207 下京区上之町13	075-351-1045
	〒600-8812 下京区中堂寺北町71	075-802-6529
南 消 防 署 京 都 駅 西 消 防 出 張 所 吉 祥 院 消 防 出 張 所 西 八 条 消 防 出 張 所 久 世 消 防 出 張 所	〒601-8445 南区西九条菅田町4-1	075-681-0711代
	〒601-8473 南区西九条戒光寺町2番地	075-691-0327
	〒601-8327 南区吉祥院御池町6	075-691-5220
	〒601-8302 南区吉祥院西ノ庄淵ノ西町42	075-313-0402
	〒601-8213 南区久世中久世町二丁目129-2	075-932-1873
右 京 消 防 署 嵯 峨 消 防 出 張 所 梅 津 消 防 出 張 所 御 室 消 防 出 張 所 京 北 消 防 出 張 所	〒616-8162 右京区太秦蜂岡町36	075-871-0119代
	〒616-8366 右京区嵯峨天龍寺今堀町1	075-861-0722
	〒615-0906 右京区梅津高畝町46	075-861-0900
	〒616-8092 右京区御室大内35	075-462-3131
	〒601-0533 右京区京北下中町勝山田8	075-854-0119
西 京 消 防 署 桂 消 防 出 張 所 松 尾 消 防 出 張 所 洛 西 消 防 出 張 所	〒615-8186 西京区榎原佃19	075-392-6071代
	〒615-8026 西京区桂市ノ前町12	075-381-2370
	〒615-8281 西京区松尾木ノ曾町59-6	075-391-3584
	〒610-1142 西京区大枝東新林町二丁目4	075-332-0683
伏 見 消 防 署 醍 醐 消 防 分 署 南 浜 消 防 出 張 所 淀 消 防 出 張 所 山 ノ 下 消 防 出 張 所 神 川 消 防 出 張 所 向 島 消 防 出 張 所	〒612-8422 伏見区竹田七瀬川町9-1	075-641-5355代
	〒601-1366 伏見区醍醐大構町28	075-571-0474代
	〒612-8045 伏見区南浜町273-2	075-611-2165
	〒613-0904 伏見区淀池上町197	075-631-2434
	〒612-8002 伏見区桃山町山ノ下44-5	075-601-8999
	〒612-8495 伏見区久我森の宮町14-27	075-922-7777
	〒612-8136 伏見区向島四ツ谷池7-10	075-622-3754

# 消防局の機構と事務分掌

## 職員の現況（平成26年4月1日現在）

定員 1,838人(初任教育生34名を除く。)

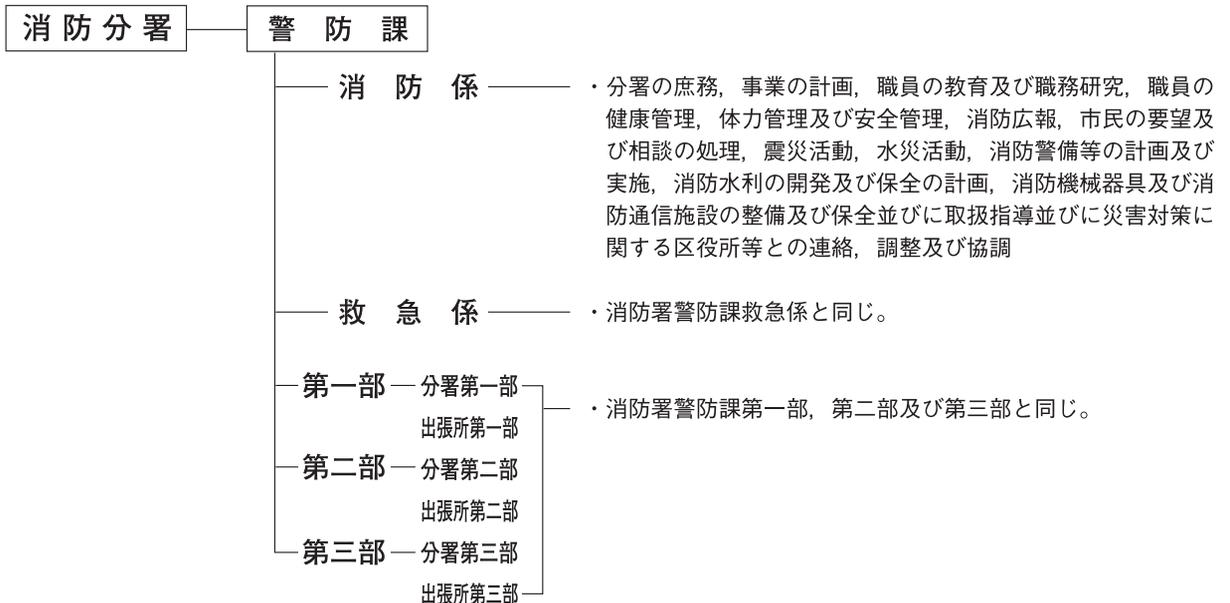
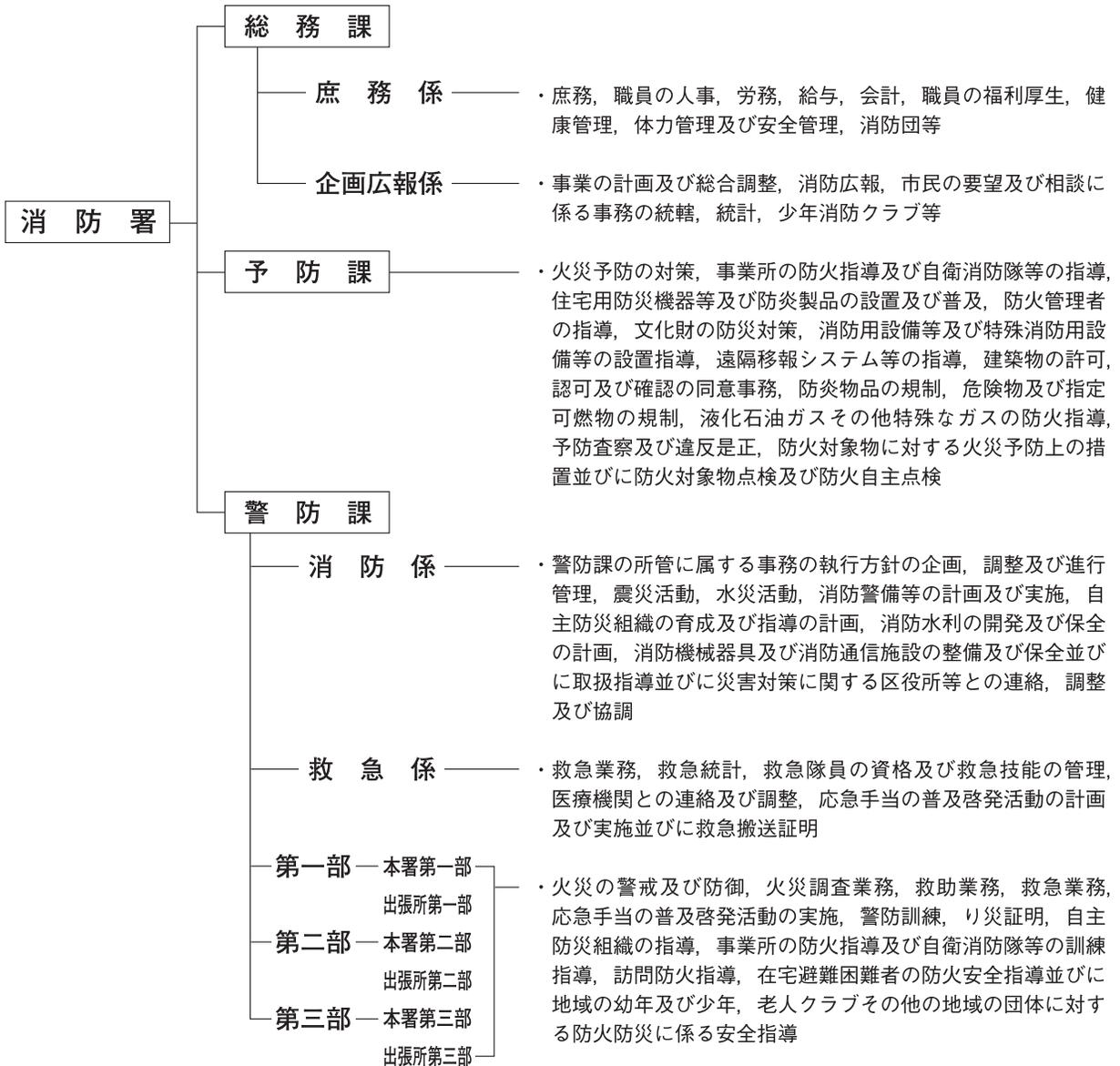
現在員 1,719人(初任教育生34名及び再任用職員67名を除く。)

## 消防局（本部） 4部， 1校， 14課





消 防 署 (11署・1分署)



# 消防予算の現況

## 予算の概要

平成26年度の京都市の当初予算は、「あらゆる京都の強みを生かした成長戦略の推進と安定した雇用の創出」、「市民のいのちとくらしを守る取組」、「『世界の文化首都・京都』を目指した京都の魅力と都市格の更なる向上」の3点を重視し、現下の課題にスピード感を持って政策を推進する積極予算として編成されています。また、「はばたけ未来へ！<sup>みやこ</sup>京プラン」に掲げる京都の未来像を確実に実現していくため、「京都の強みを最大限に生かした地域経済の活性化と安定した雇用の創出」、「福祉・医療・子育て支援・教育などの充実」、「京都で暮らす方、京都を訪れる方全ての安心安全を守るための防災・老朽化対策」、「文化芸術の振興や地域の個性と活力あふれるまちづくりなど京都ならではの魅力の向上」、「環境にやさしい循環型社会、持続可能なエネルギー社会の実現」、「都市の活力を高める『歩くまち・京都』の推進と都市基盤の整備など未来の京都への先行投資」の6点を重要課題としています。

消防局予算においても、「はばたけ未来へ！<sup>みやこ</sup>京プラン」に掲げる「災害に強く安心して住み続けられる『安心都市・京都』」の実現に向け、市民を守る消防活動体制の充実や地域防災の中核となる消防団体制の充実を中心に、次の新規・充実事業を計上しました。

まず、消防活動拠点施設の整備として、竣工から50年以上が経過し、老朽化が著しい北消防署について、建替えに向けた整備手法や施設規模等に関する基本計画を策定します。

また、集団救急救助事故や増加する救急需要に対応するため、地方独立行政法人京都市立病院の敷地内に四条消防出張所を移転のうえ、大型救急車を備えた出張所に転換することにより、市立病院との連携を確保し、救急体制の更なる充実強化を図ります。平成26年度は、実施設計に着手し、平成28年度中の竣工を目指します。

次に、消防団体制の充実として、消防団員有志による「充実強化実行チーム」を結成し、平成25年度に実施した「消防団100人委員会U-35」で出された意見に基づき、実際の事業を企画・立案・実行し、更なる消防団の活性化を図ります。

新たに取り組む「文化財防火サマースクール」については、小学校高学年の児童や中学生を対象として、社寺関係者にも御協力いただき、文化財の講習や防災訓練等を行い、京都の文化財が火災からどのように守られてきたかを学ぶことで、文化財愛護思想を育むとともに、京都の貴重な文化財を火災から守り、未来へ継承していく担い手を育成します。

## 予算の規模

平成26年度の消防局の当初予算は、総額228億8百万円を計上し、前年度の当初予算と比較すると、8億56百万円(3.6%)の減となりました。主な増減内容は、消費税増税による影響などにより消費的経費が1億16百万円(5.4%)の増となったこと、定年退職予定者の減少などにより、給与費が9億24百万円(5.0%)の減となったことなどが挙げられます。

(平成26年4月1日)

区 分	26年度当初予算額	前年度当初予算額	対 前 年 度 比 較	
			増 減 額	増 減 率
市一般会計総額(A)	739,507,000 <sup>千円</sup>	736,553,000 <sup>千円</sup>	2,954,000 <sup>千円</sup>	0.4%
消防局予算額(B)	22,808,000	23,664,000	△856,000	△3.6
一般会計と消防局予算の割合 (B) / (A) × 100	3.1%	3.2%	—	—

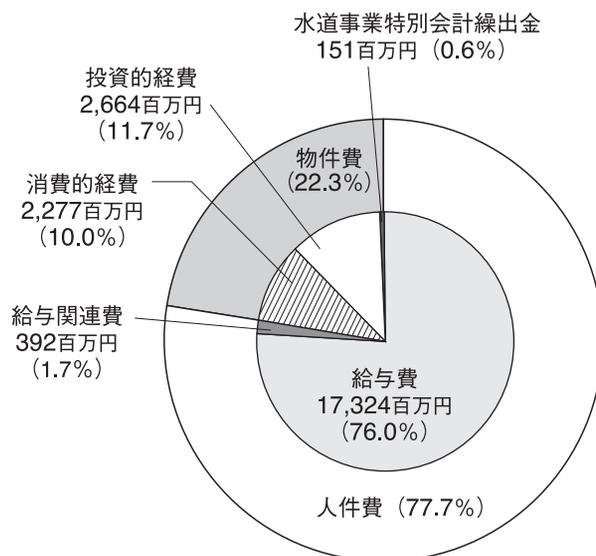
## 消防局歳出予算性質別内訳

### 人件費 (77.7%)

給与費	17,324百万円
給与関連費	392百万円

### 物件費 (22.3%)

消費的経費	2,277百万円
投資的経費	2,664百万円
水道事業特別会計繰出金	151百万円



## 消防局歳出予算費目内訳

(平成26年4月1日)

款	項	目	26年度 当初予算額	前年度 当初予算額	対前年度比較	
					増減額	増減率
消防費	消防総務費	消防総務費	17,809,000	18,724,000	△915,000	△4.9
	消防費	常備消防費	1,582,690	1,496,395	86,295	5.8
		消防団費	626,000	600,000	26,000	4.3
		水道事業特別会計繰出金	151,310	145,805	5,505	3.8
	消防施設整備費	消防施設整備費	2,639,000	2,697,800	△58,800	△2.2
合計			22,808,000	23,664,000	△856,000	△3.6

## 消防局当初予算の推移

年度	当初予算額	特定財源			一般財源	地方交付税(消防費)	
		国府支出金	市債	その他		基準財政需要額	単位費用
22	24,315,000	21,000	1,426,000	447,000	22,421,000	18,277,609	11,400
23	23,280,000	13,500	962,000	364,500	21,940,000	17,769,170	11,200
24	23,759,000	28,500	1,349,000	300,500	22,081,000	17,905,596	11,300
25	23,664,000	28,500	2,621,000	397,500	20,617,000	17,202,574	10,800
26	22,808,000	28,500	2,378,000	508,500	19,893,000	—	11,200

## 主な事務事業

事務事業名	概要	当初予算額
消防活動拠点施設の整備	○消防活動拠点施設の整備 ・北消防署整備 ・四条消防出張所移転整備	千円 20,000
消防団体制の充実	○消防団 100 人委員会U-35 の推進 ○消防団施設補助 ○消防団震災対策機材整備 ○消防団水災対策器材整備	124,900
消防水利整備	○消防水利整備 ・耐震型防火水槽 100 m <sup>3</sup> 2 基 ・防火井戸 1 基	78,000
消防車両整備	水槽付ポンプ車, 大型はしご車, 司令車, 救助工作車, 大型救急車, 救急車 など	425,500
消防防災通信ネットワークの構築	○消防指令システム更新整備 ○消防救急無線デジタル化整備 ○地域衛星通信ネットワーク整備	1,676,000
救急高度化事業	○救急教育訓練センターにおける救急救命士の養成 ○メディカルコントロール体制の充実	96,000
応急手当の普及啓発	○応急手当の普及啓発 ○安心救急ステーションの推進	9,000
予防対策	○予防消防推進 ○文化財防火対策 ・文化財防火サマースクールの開催	60,300
自主防災組織の災害対応力の充実	○自主防災組織の災害対応力の充実 ・自主防災上級研修の実施 ・京都学生消防サポーターの充実 ・自主防災組織活動助成	18,500

# 消防団の現況

京都市の消防団は、各行政区に設けられた11の消防団とおおむね学区単位に設けられた205の消防分団、また、特定の活動のみを行う機甲分団、応急救護分団をもって組織しています。

消防団は、消防局との力強い連携により、火災、震災その他の非常災害時における警戒防御活動を行うとともに、市民の防火・防災に対する意識と対応力を高めるため、昼夜を分かたず活動しています。

## 消防団のあゆみ

江戸時代、京都には、主に禁裏(御所)の防衛に当たっていた「常火消し」と各町で組織されていた「町方火消し」があったといわれています。この「町方火消し」が明治9年に「消防組」、昭和13年頃から「警戒消防団」に改組され、昭和23年に「消防団」となって今日に至っています。

このように、京都市の消防団は、その前身となる町方火消しが誕生してから300年余りの長い歴史と輝かしい伝統に支えられています。

## 消防団の組織

消防団は、消防団本部と分団で組織されています。

## 消防団の階級

市長から任命された消防団長は、市長の承認を得て消防団員を任命します。消防団員は、団長・副団長・分団長・副分団長・部長・班長・団員の7つの階級に分けられ、災害現場活動等での指揮命令系統が明確にされています。

### ■ 消防団本部

消防署に設置され、団長と総務・予防・警防・教育を担当する副団長で構成されています。

### ■ 消防分団

分団本部と部によって組織され、分団本部は分団長1名と総務・予防・警防・教育を担当する4名の副分団長で構成されています。部は、各分団の地域事情に応じて編成され、それぞれの担当地域で部長を中心に市民指導や情報収集、広報活動などを行っています。

### ■ 機甲分団

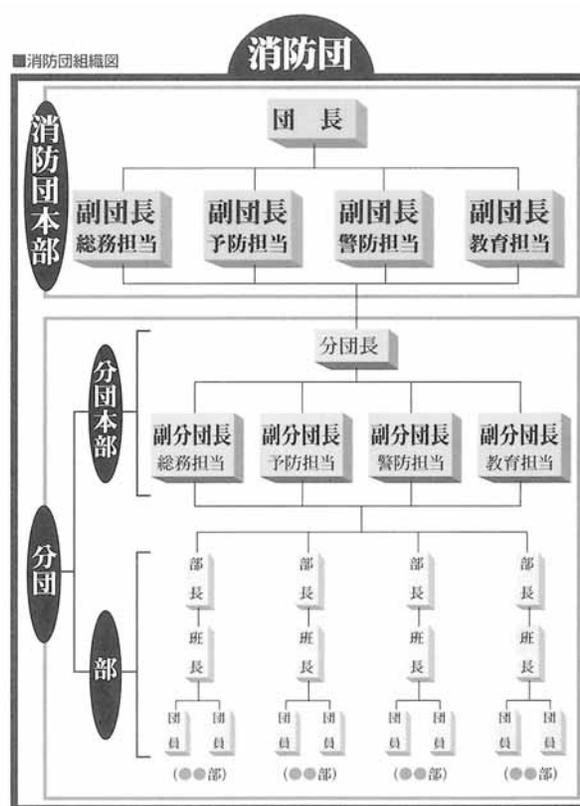
平成21年11月に中京消防団に創設され、分団長と分団員で構成されています。クレーン車などを所有する事業所の従業員が、大規模な地震や土砂崩れ等が発生した場合に、重機を活用した人命救助に特化した活動を行います。

### ■ 応急救護分団

平成22年3月に各消防団に創設され、分団長と分団員で構成されています。応急手当の普及啓発及び大規模な事故が発生した場合の救護活動に特化した活動を行います。

## 平常時の活動

地域の防火・防災リーダーとして、自主防災組織など地域住民の災害対応力を向上させるために指導や訓練を行うとともに、地域の訪問防火指導や巡回パトロール、応急手当の普及啓発等を実施しています。



## 災害時の活動

### ■ 火災現場活動

火災現場では、警戒区域の設定と群衆整理、人命救助と避難誘導、物件の搬出と保護、飛び火の警戒、消火活動の支援、鎮火後の警戒などを行います。また、火災の状況により、配置器材を活用した消火活動を行って早期鎮圧を図り、消防隊と協力して活動を行います。

### ■ 震災その他の非常災害時の活動

阪神・淡路大震災を契機に市内の全消防分団に配置した小型動力ポンプや救助器材などの装備を活用して、震災その他の大規模な災害時に消火活動や救助活動などを行います。

## 消防団現状（平成26年4月1日現在）

### ■ 消防団員数

定員 4,970名

現在員 4,269名（うち女性323名）

団名	分団数	団員数
北	20	390
上京	18	274
左京	28	647
中京	25	423
東山	12	200
山科	14	232
下京	24	332
南	13	277
右京	25	621
西京	16	318
伏見	22	555
計	217	4,269



### ■ 小型動力ポンプ等の配備状況

小型動力ポンプ 251台

小型動力ポンプ付積載車 38台

ポンプ車 6台

## 消防団の充実強化

地域防災の要である消防団の一層の充実強化を進めるとともに、消防団活動への市民理解の促進と消防団員の確保を図るため、次のような事業を展開しています。

### ■ 消防団活動の強化

消防活動総合センターを活用した実戦的な訓練の実施

### ■ 消防団活動装備品等の充実

### ■ 消防団充実強化実行チームによる活動

消防団員によるプロジェクトチームを結成し、消防団の充実強化を図る企画の立案、実行に取り組みます。

### ■ 消防団活動の紹介及び消防団員募集活動の実施

京都市消防局インターネットホームページによる情報発信

学生のデザインによる消防団員募集ポスターの作成



消防団充実強化実行チーム